

### (1) 1年生 著作権レクチャー（情報収集）

総合的な学習の時間では、本やインターネットなど、様々な方法で調べ学習を行う。自分たちの活動に関わることについて調べたり、発表するためにまとめたりする。その際に、たくさんの情報に触れる。情報には、自由に扱ってよいものと、そうでないものがあり、作成者の権利を守る視点から、著作権（その作品をオリジナルで作った人「著作者」だけが、変えたり、使ったり『売る、自分のものとして表現』してよいという権利）が存在する。中学校では、情報を扱うことが増えるため、著作権について学び、正しい情報の用い方を理解し、正しく情報を用いることができるようになる必要がある。また、著作権は、中学校生活だけでなく、中学校卒業後の学校生活や、将来、働くときに様々な場面で情報を扱う際に意識する必要があると考えられる。

これらのことから、中学校1年生において著作権について学習し、中学校3年間で行われる様々な活動に対して、情報をどのように活用していくか、行ってよいことといけなことを区別し、情報モラルに関するリテラシーを育てていく。

今回、著作権についての学習を行うために、著作権について詳しい本校の学校司書に依頼をして、著作権についての話をしてもらうことにした。

#### ① 活動内容

本校の学校司書と、担当教諭が話し合いながら、どのような形で著作権の学習について行うか決めていった。

1クラスずつ、プロジェクターでプレゼン資料（図1）を写しながら説明を行い、学習を進める。

活動は、著作権に関する説明が多くなるので、Q&A方式で具体的な事例を示して、どのように考えたり対応したりするか、生徒が考える場を設けながら進めて行くことにした。

また、Q&Aの答えを書くためのワークシート

（図2）を作成して、メモをとりながら学習できるようにした。

#### ② 活動の実際

活動は、次のような順に進めていった。

- ・ レポートを書くときの材料について
- ・ 著作権とは
- ・ 著作権制度の目的
- ・ 著作権の内容
- ・ 著作権を自由に利用できる場合について
- ・ 参考文献の書き方
- ・ ウェブページの場合の情報源（出典）の書き方

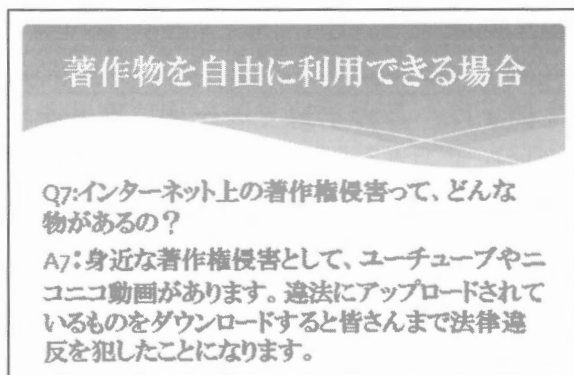


図1 プレゼン資料のQ&Aの例

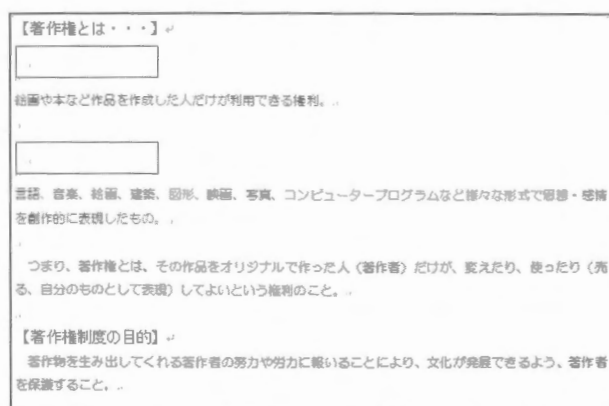


図2 ワークシートの例

- ・学校などの教育機関で複製（コピー）する場合
- ・情報カード&参考文献リスト

図3は、実際の活動の様子である。Q&A方式で行ったこともあり、生徒は、積極的に活動に取り組み、著作権について学習することができた。特に、動画サイトに関わる著作権についての話は、生徒も使用することが多いため、驚きの声があがった。



図3 活動の様子

#### 著作権レクチャーのふりかえりより

- 著作権についてあまり知らなかったのですが、このガイダンスでくわしく知ることができました。もう少し細かいことも知りたいと思ったので、今度、調べてみようと思います。（生徒A）
- 今日は著作権についてのガイダンスをきいて、知らないことがたくさんありました。もしかしたら、自分もやぶっているものも・・・？というものもあっておどろきました。人ごとじゃないんだなあとわかりました。このことを頭に入れながらレポートを作成したいです。（生徒B）
- 少し興味があったので楽しくうけられました。例題もあって分かりやすかったです。（生徒C）
- 著作権は思っていたよりも大きな問題なんだという事が話をきいてわかった。レポートをかくときなどは、気をつけて、誰も傷つけないようにしたい。（生徒D）

生徒Aは、この学習で著作権に興味を抱き、自ら調べたいと感じている。生徒Bは、知らず知らずのうちに、著作権を侵害している可能性について自分の事として捉えて、今回の学習を今後の活動に活かそうと考えている。生徒Cの感想からは、この活動が生徒にとって分かりやすいものであった事が伺える。生徒Dは、自分の行為で他の人が傷つけないように配慮する必要性についても考えている。

このように生徒のふりかえりからは、著作権についての理解とそれを学んで活動に生かしていくことの重要性の理解についてうかがう事ができる。

#### 【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・情報の伝達にならないように工夫する必要がある。
- ・実際に調べ学習などの活動を行う際に、その都度、著作権について想起する場面を教師が設定し行うことで、知識から、新たな視点への獲得へとつながっていくと考えられる。

#### (2) 1年生新聞レクチャー

新聞制作に入る前に、1時間ほど学年で体育館に集まり、新聞制作に向けた事前学習を行った（図4）。生徒は、次の3点について新聞制作の作り方について学習した。

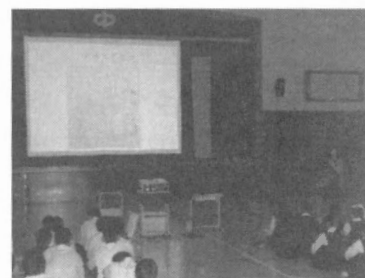


図4 新聞レクチャーの様子

### ①構成を考える

まず、どのような見出しにするか、どのような写真を載せるのか、どのような記事載せるのかなど、全体の構成を考えるよう伝えた。そして、それぞれをどのような配置にするのかなど、新聞のレイアウトを考えるよう伝えた。

載せる記事の内容として、「具体的な活動内容」「活動を通して学んだこと」「新しく発見したこと」「特に自分が力を入れて頑張ったこと」「交流体験の感想」などを例示した。また、それぞれの記事について5W1H（いつ・どこで・だれが・何を・なぜ・どのように）を意識して記述すると読み手が理解しやすいことを伝えた。

### ②下書きをする

①で考えた構成をもとに内容の下書きするように伝えた。その際、実際に清書する内容を記述すること、さらに誤字や脱字が無いようにすることを注意事項として伝えた。

### ③清書する

担当の教員のチェックを受けた生徒から清書を行った。清書の際には、読み手が読みやすくなるように、色をたくさん使って仕上げるように伝えた。ただし、記事の本文は黒色で書くように伝えた。

以上のような新聞レクチャーの後に、生徒は一人1枚の新聞を制作した。図5は、生徒が制作した新聞の例である。

また、新聞制作後には、以下のようなふりかえりの記述が見られた。



図5 生徒により制作された新聞

#### 新聞制作後の生徒のふりかえり

○新聞を作ることで、今まで自分が行ってきた活動を振り返ることができた。次はこの新聞を使って、自分が活動を通して考えたことを伝えていきたい。

このふりかえりから、生徒は新聞制作を通して学んだことを自覚していることがわかる。さらに、新聞にまとめることは他者に伝える手段にもなり有意義な活動となった。

#### 【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・廊下に先輩たちの作品を掲示することで、新聞を書く際の具体的なイメージにつなげた。
- ・校内で新聞コンクールを行うことで、生徒のモチベーションが上がった。

### (3) 2年生新聞レクチャー・新聞制作

職場体験学習で学んだことを新聞にまとめて掲示することで、自らの活動を振り返ったり、お互いの体験について共有したりできるようにした。

#### ① 新聞レクチャー講師：山陰中央新報社編集局文化生活部 NIE担当 水野幸雄氏

新聞を制作する前に、記事の書き方や新聞紙面の作り方について、新聞記者の方からレクチャーを受けた(図6)。

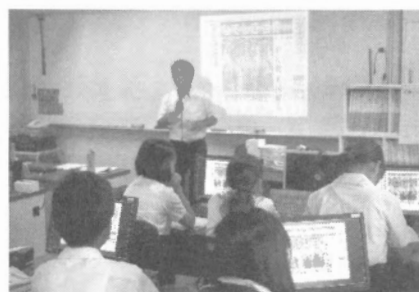


図6 新聞レクチャーの様子

記事を書く際の基本として、前文に「いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように」の5W1Hを盛り込みながら要点をまとめることが大切であることなどを学んだ。また、紙面作りのポイントについて、記事をもとに見出しを作ってみるなどしながら指導を受け、今後の新聞制作につながる内容であった。さらに、写真の使い方やレイアウトの仕方について、実際の新聞の紙面を見ながら学ぶことができ、新聞記者の方ならではのレクチャーであった。

## ② 新聞制作

新聞レクチャーで学んだことを生かし、新聞を制作した(図7)。職場体験学習の3日間にどのような活動をしたのか、その活動をして感じたこと・考えたこと、体験先の方へのインタビューの内容など、多くの生徒が詳細かつ分かりやすくまとめることができた。また、Bridgeのテーマに関わって、体験やインタビューを通して自分が考えた「住みたいまち」とはどのようなものかを取り入れて書くことができた。

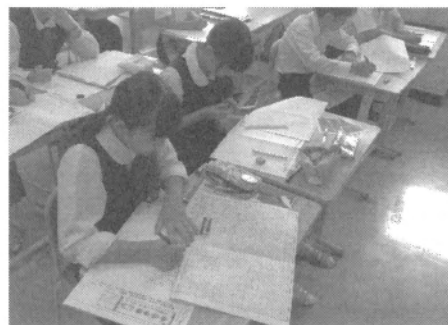


図7 新聞制作の様子

制作した新聞(図8)は、発表会の際の補助資料とし、廊下に全生徒の新聞を掲示してお互いの体験について共有できるようにした。



図8 生徒により制作された新聞

### 新聞レクチャーのふりかえり

- 写真の大きさを変える工夫など、読者のことを考えて新聞を作っておられることを知りました。私もそういう工夫をして作ろうと思います。
- 自分でタイトルを考えてみて、おもしろかったです。どんな新聞を作ろうかと楽しみになりました。
- 新聞の書き方について、知らなかったポイントをしっかりと学ぶことができて良かったです。新聞記者の方の話だったので、本当の新聞を参考にして教えてもらって、色々なことが分かりました。

### 【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・地域の新聞社から講師を招いて新聞レクチャーを実施することで、実際の新聞を制作する際のポイントを学べるようにする。
- ・新聞に書く内容は、働くことに関するだけでなく、体験やインタビューを通して自分が考えた「住みたいまち」とはどのようなものかを取り入れるようにする。

### (4) 2年生発表レクチャー

職場体験学習で学んだことや自分の考えを1年生に分かりやすく伝えるために、各クラスで発表レクチャーを1時間設定した。

まず、授業の前半で発表レクチャーを行った。生徒は、次の3点について学習した。

#### ○聞き手に分かりやすいと感じさせるための話し方の工夫

話し方の工夫として、相手をしっかりと見ることの必要性、勢いのある速い話し方やゆったりとした話し方の効果、声の高さ、大きさの工夫の仕方等について学んだ。また「○○さん、どうですか」等、相手の名前を呼んで、聞き手を巻き込みながら話す工夫、難しい言葉は平易な言葉または聞き取りやすい言葉に言い替える工夫などについても学んだ。

#### ○聞き手に視覚で訴えるためのプレゼン資料作成上の工夫

資料作成上の工夫として、視覚的な要素を重視する、例えば、テロップは16文字まで、付箋紙などを用いためくりタイプの効果、伝わりやすいイラストや写真の利用、言葉に代わる記号の利用などについて学んだ(図9)。

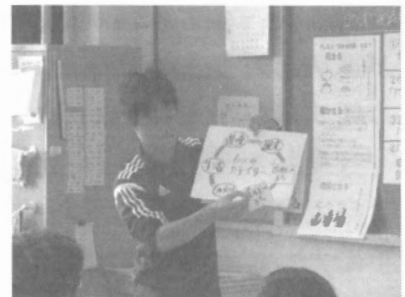


図9 プレゼン資料の紹介

#### ○聞き手に自分の考えを適切に伝えるための構成の工夫

構成の工夫として、伝えたいことを3つに絞るとよいこと、結論を始めに伝えると分かりやすいこと、タイトルをつける場合は短いほどよいこと、キャッチコピーを使って印象に残るようにするとよいこと、正しく伝えるために数字を利用するとよいことなどを学んだ。

授業の後半では、前半のレクチャーを踏まえて、発表の構成を考えた。その際、体験を通して考えた「住みたいまち」について、改めて考え、発表内容の中心に据えるよう意識させた。生徒は、これまでまとめた資料や作成した新聞などのポートフォリオを見ながらまとめていた。また、話し手と聞き手と双方向でやりとりができる発表になるよう、聞き手を巻き込む質問内容やそのタイミングについても考えるようにした。

この時間の生徒のふりかえりを以下に示した。これらの記述にあるように、生徒は、聞

き手に分かりやすく伝えるために工夫をしながら準備をしていこうとする意欲をもつことができた。

### 発表レクチャーのふりかえり

- 発表レクチャーを聞いて、何が重要かを考え、発表会ではどう話すかを考えることができた。次回、いいプレゼンができるように準備を進めたい。
- 聞き手が分かりやすいように伝えるには、たくさんの技術が必要だと思いました。なるべく多くのコツを取り入れていきたいです。

### 【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・発表資料の見本として、先輩たちが作成したものや教員が作成した見本を提示することで、生徒に具体的なイメージができる。
- ・参考図書資料『図解テレビに学ぶ中学生にもわかるように伝える技術』（天野暢子著 鷗来堂）

### (5) 3年生発表レクチャー

生徒たちはそれぞれの講座で、地域社会の課題を発見し、解決のための方策を計画し、様々な活動に取り組んできた。地域社会に参画することを通してふるさとを明日をつくらうとする生徒たちは、自分たちの取り組みを他者に伝えたいとの思いがある。そのためには自分たちが収集した情報を相手や目的に応じて、手際よく、よりわかりやすく伝える力を身に付けることが必要となる。そこで、島根大学教育学部御園真史准教授を講師に、発表スキルレクチャーの授業を設けた。

『何を』伝えるのか、『どう』伝えるのか、それらについて気を付けるべきことは何かに沿って、生徒に対する「発表会へのアドバイス」という位置づけで50分の授業が進められた。

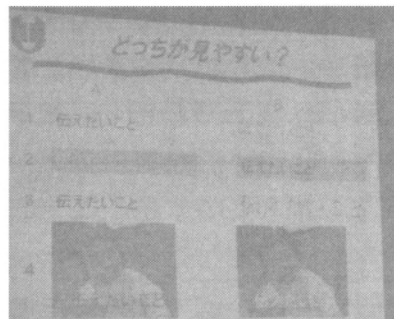


図10 見やすいスライド比較の例

授業はプレゼンテーションソフトを使用して行われた。生徒には良い例と良くない例が一目でわかり、自身の発表資料作りに役立つ情報が随所にあるレクチャーだった(図10)。

発表とは伝える相手あってこそその行為である。聞き手に配慮し、何をどう伝えたと聞き手にとって有益な発表となるかを意識しなければならない。そのため生徒は次の4点について学習した。

#### ① 聞き手を意識して、発表者が事前に準備できる工夫

- ・発表の流れを発表の始めに伝えることで、聞き手に心積もりができる。
- ・発表内容についての質疑応答の練習をする。

聞き手からの質問内容を想定すると、それをカバーする発表内容に仕上げるができる。また、聞き手の質問を誘導するような発表内容にすることも可能になる。

#### ② 何を伝えるのか

- ・喜怒哀楽を表現する。

自分の感情がしっかり出るものを話題として選ぶことで、聞き手に伝わりやすい発表内容になる。

- ・情報量を加減する。

限られた発表時間で活動の全てを伝えることはできない。発表の目的に沿って話題を取捨選択する必要がある。

### ③ どう伝えるのか

- ・自分にあった発表形式を選ぶ。

自分が伝えたいことに合う方法を選ぶことが重要である。テレビ番組、授業、動画投稿サイトで使用されている形式（テロップ、フリップ、ボード）など身の回りに参考になる形式がたくさんある。

- ・用途に合わせた資料作りをする。

論理的であるかどうか、テキストとイラスト・写真のバランスはどうかをチェックする。

- ・提示資料の文字を考える。

書体、太さ、配色、サイズ等、見る側を意識する。

- ・どのように発表するか考える。

大きな声で堂々とはっきり話したり、聞き手を巻き込む工夫（実演、問いかけ、クイズなど）を入れたりする。

### ④ 説得力ある発表内容にするために

- ・他者の著作権を侵さないようにする。
- ・資料に出典を記す。
- ・信頼性の高いデータを利用する。

#### 発表レクチャーのふりかえり

○発表するときだけでなく、発表の準備段階から常に聞き手を意識することの大切さを学びました。この総合の時間の活動はたくさんあって、伝えたいことはたくさんあるので、それに「喜怒哀楽」をつけて自分の思いを伝えたいと思います。

○自分にあった発表形式は何かとを考えながら聞きました。文字や声の大きさ一つとっても表現を変えるだけで、聞き手に与える印象が大きく違うことを学びました。聞き手を巻き込んだ発表ができるよう準備を頑張りたいと思いました。

#### 【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】

- ・過年度及び各教科の学習で培ったスキルを生かせるよう、多様な発表形式が想起できるようにする。
- ・行政や地域の団体の刊行物も発表資料として参考になるので適宜提示する。
- ・中学校教員に比べ、大学教員は自身の研究発表を行う機会が多い。豊かな経験をもとにした発表の工夫を指導されるとより説得力がある。

### (6) 3年生発表準備・発表練習

御園真史准教授からの授業講演会を受け、プレゼンテーションの構成を考えた。構成は、

- ①テーマ ②テーマ設定の理由→仮説 ③テーマ追求の方法 ④テーマ追求の内容 ⑤まとめ（成果と課題）の5項目をまとめることにし、発表の中に取り入れることにした(図11)。また、どんな形式で発表するかをポスター、模造紙、紙芝居、劇、パワーポイント、レポ

ート、新聞の中から選んだ。昨年度の発表物を廊下に掲示し、自分に合った発表物はどれなのか選べるようにした。生徒が作成した資料は、ポスターやフリップ、紙芝居など様々であった（図12）。

**プレゼンの構成を考えよう** ※以下の項目は、発表の中にあらかじめ取り入れてください。

① テーマ(「住みたいまち」にむかひつていふこと)

・笑顔もいっしょにやろう→笑顔さん  
 ・病院の利点やサービス、進に話題なども取り

② テーマ設定の理由

・私、住みたいところは、笑顔が大好き、心の面でも施設の面でも、  
 などでも安全だと思える例だから  
 ・病院が活躍するまち  
 ・病院が普及していることで、いざなり倒れれば、死  
 すぐには病院に通、い、治療を受けることが出来たりする

↓

【質問】  
 病院を勉強した上で、病院でアルバイトはいいや、なして、患者さん  
 の笑顔も増やせば、私の住みたいまち、は、いいのでは?

図11 プレゼン構成のワークシート



図12 生徒が作成した発表資料

前日に発表リハーサルを行った。本番と同様の6分間で行い、発表者は時間とインタラクティブな発表を意識して発表を行った。班員は評価シートの項目に従って評価を行い、改善点を伝えた（図13）。

**リハーサルの目標**  
 発表当日、友だちの考えてきたことが、2年生にきちんと伝わるように、発表の良いところや改善点を見つけてあげよう。

評価について	A : 十分満足 B : ほぼ満足 C : もう少し改善したほうが良い D : 改善したほうが良い
--------	--

	評価
1 体の向きや姿勢は適切だったか	(A)・B・C・D
2 聞き手に十分伝わる声の大きさだったか	(A)・B・C・D
3 アイコンタクトをしていたか	A・(B)・C・D
4 動き込む工夫ができていたか	(A)・B・C・D
5 伝えたい情報が明確だったか	(A)・B・C・D

よかったところや改善点  
 我が身をふりかえりながら、プラフをちがう紙に書いて  
 いるのが良かった。もう少し、聞き手がよくわかるように

図13 リハーサルでの評価シート

**【指導上の留意点や地域と連携する際の留意点】**

- ・発表レクチャーはもちろんだが、1、2年生での発表の経験や今まで聞いてきた先輩たちの発表する姿を参考にしながら、生徒が自分にあった発表形式を選択することで、よりよい発表につながる。
- ・リハーサルにおいて、評価シートを活用して相互評価しながら発表練習を行うことで、改善点が明確に示され、本番にむけて必要な準備が明確になった。